

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年4月12日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970101634		
法人名	社団法人 高知市労働事業協会		
事業所名	グループホーム やさしい里		
所在地	〒780-8066 高知県高知市朝倉己771-1		
自己評価作成日	平成23年1月20日	評価結果 市町村受理日	平成23年4月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の身体レベルの低下が見られるなか、自分でできることはできるだけ自分でしてもらうようにし、失いかけた能力を維持していけるよう介護しながら支援している。また、入居までの生育面について入念な聞き取りを行い、一人ひとりに合った個別ケアを行うことを目標として取り組んでいる。事業所では、理念である「人間の尊厳」を大切に「生きることの喜びを実感できる暮らし」の実現を目指して日々取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.pippikochi.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3970101634&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会		
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ		
訪問調査日	平成23年2月22日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人のデイサービスセンターや訪問介護事業所も併設された事業所で、近くには公園などもある静かな住宅地に立地している。職員は法人の理念である利用者の尊厳の保持を大切に日々のケアに取り組んでおり、利用者の重度化の傾向がある中であって、コミュニケーションを図りながら寄り添い、家庭的な雰囲気づくりに配慮している。外出支援にも重きを置き、季節に応じた花見や行楽を企画したり、利用者の希望に沿って、買物やドライブに出かけている。また、運営推進会議では家族代表や地域の代表者、行政関係者の参加を得て協議が行われ、出された意見等は運営に反映させている。地域の行事等に積極的に参加したり、事業所の催しに地域住民の参加があり、日頃から近くの託児所のこどもたちとの触れ合いや併設のデイサービスセンターの利用者と交流するなど、今後も地域に溶け込み発展していく事業所としての期待が持てる。

自己評価および外部評価結果

ユニット名: I ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の尊厳を基本に地域社会の一員として権利が保たれ、日常生活を送ることができるよう、ホームの理念や運営方針で明確にしている。ミーティングや現場で絶えず確認し合い、実践できるよう心がけている	利用者一人ひとりの尊厳を大切にしていける理念を掲げ、職員は常に運営の基本方針を振り返りながら、日々のその人らしい暮らしを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年末のイルミネーション、5月の鯉のぼり、夏のよさこい踊りなどのホームの催しを地域の皆さんと一緒に楽しんでいる。また、一斉清掃、不燃物収集、夏祭り、敬老会、防災訓練などの地域活動に積極的に参加したり、散歩時等の挨拶など、日常的に交流している。	町内会に加入し、地域の清掃や祭り、防災活動などに積極的に参加するとともに、事業所の催しを通して地域住民と交流している。また、小学生の訪問を受けたり、近くの公園に散歩に出かけ、託児所の子どもたちとの触れ合いがあるなど、地域に溶け込んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣教育施設等による見学や職場体験の場として積極的に協力している。そうした中で、認知症について理解してもらい、事業の大切さをアピールしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、町内会長、家族の代表、市民会館館長、行政担当職員を交え、2カ月に1回運営推進会議を開催し、ホームの取り組み状況等の報告を行い、助言や意見等は運営につなげている。	利用者の状況や事業所の運営状況、評価結果等について報告するとともに、開催時期に応じた議題を提案し、参加委員から意見や提案、要望などが出され、双方向的な会議となっている。出された意見等は検討しながら運営につなげている。	さらにサービスの向上を図るため、評価結果を受けての目標達成計画への取り組みも議題として話し合うことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的ではないが、適宜、問い合わせや相談を行い、時には問題提起もしながら連携を保つように心がけている。また、西部地区のグループホーム連絡会を通して定期的に情報交換を行っている。	運営推進会議を通して事業所の運営状況を伝え、助言をもらったり、制度の運用にあたって市の担当課に問い合わせるなど、日頃から関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束対応マニュアルの理解と、個別事例の検討を行っている。また、内部研修、外部研修を通して全職員は身体拘束についての理解を深めている。	身体拘束に関する研修会への参加や、身体拘束廃止委員会で事例検討を行うなど、言葉による行動抑制も含めた、拘束のないケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを全面的に見直すとともに、内部研修、外部研修を通して全職員に虐待の防止についての理解を徹底し、実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、内部研修に関連させて説明し、職員の理解に努めている。現在、活用事例はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前に、ホームの見学や要望等を聞くとともに、重要説明事項等を十分に説明し、理解、納得のうえで利用してもらようにしている。また、解約についても医療機関や他の福祉施設、介護支援専門員等と協議を行い、介護、医療の継続が図られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理担当職員の設置のほか、意見箱を設置し利用者や家族の希望、意見等が反映できるように心がけている。また、重要事項説明書の中にも行政等の窓口を明記している。	家族の面会時や行事への家族の参加の機会を捉えて希望や意見を聞くようにしており、要望に応じて日々のケアにつなげている。家族会の設立について働きかけているが、家族の意向もあって結成には至っていない。	家族は身内が世話になっていることから意見等を言い出し難いことを理解したうえで、現在の取り組みに加え、家族と懇談する機会づくりなど、さらに意見等を引き出す工夫を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で職員の意見、提案、要望を聞く機会を設け、適宜、運営に反映させている。	職員会や申し送りの機会を捉えて職員の意見や提案を聞くとともに、主任制を取り入れ、職員の意見集約などの工夫をしている。研修会への参加や外出支援のあり方などについて意見が出され、運営につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員にやる気を起こさせ、ケアの質の向上のため、資格取得を勧めている。資格取得者(介護福祉士等)には手当を支給するなど、配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り職員の研修会への参加について配慮している。研修参加者による報告を通じて、全職員との共有を図るとともに、年間研修計画を立て内部研修会を行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2カ月毎に西部地区グループホーム連絡会へ参加し、ネットワークを形成している。行政も交えて意見交換を行い、他のホームの活動内容等を参考にしながらサービスの向上につなげている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で、ご本人の成育歴、趣味、病歴等を詳しく収集するとともに、希望や不安なことを受け止めている。そのことが信頼関係を築くうえで重要であることを全職員が認識している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と面談し、要望等を聞き、介護支援専門員との連携して早期にサービス内容を確定するなど、信頼関係を築いている。また、経済面での相談にも応じ、行政への働きかけも行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の状況や意向を踏まえ、ホームでのサービス内容を検討するとともに、医療面や経済面での支援が必要な場合は、関係先につなぐようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が一番輝いていた頃の情報をもとに会話の時間を重視し、特に、本人の昔話を傾聴しながら共に暮らす者同士としての関係を築くようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも気軽に相談できるようにし、認知症に関する情報提供を行い、家族、職員が共通認識のもと共に利用者を支えていく立場であることを理解し合えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前に把握している友人等に連絡し、面会に来てもらったり、地域の行事への参加やドライブ時に本人の育った家や自宅周辺を意識的に通るなど、これまでの関係が継続できるよう支援している。	友人や知人、教え子などの面会があり、馴染みの関係を継続してもらうよう依頼している。また、ドライブや買物の際には、利用者の自宅近くや思い出の場所に立ち寄るなどしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や状態などにより、食卓の場所の変更したり、写真撮影、買い物等の外出時もお互いの関わり合いを大切にしながら支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時には、本人、家族の意向を尊重し、他の施設や医療機関等、利用者の状況に応じたサービスが受けられるよう対応し、その後の様子も家族や施設等から聞くようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の情報に加え、日々の利用者との会話や動作や家族からの情報等から、その思いを汲み取るようにしている。	利用開始時のアセスメント情報を基に、利用者の言動から思いや意向を把握している。利用者によっては馴染みの職員が対応したり、困難な場合は、表情や仕草、家族から情報を得て、思いを汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、本人、家族から生育歴やこれまでのサービスの利用等について聞いたり、必要に応じて介護支援専門員や医療関係者から情報を取り寄せるなど、幅広く総合的な状況把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアを通じて、一人ひとりの身体状況や、できること、できないことなどの把握に努め、その人らしい支援につなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を踏まえながら、担当者会議において、介護スタッフ全体で計画作成に取り組んでいる。また、定期的にモニタリングを行い、本人の状況に即した介護計画を作成している。	利用者の状況や家族の意向等を踏まえてカンファレンスを行い、現状を見極めながら介護計画を作成している。3カ月、6カ月を基本にモニタリングを行い、職員の気づきや介護記録をもとに介護計画を見直している。また、利用者の状況に変化があれば随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、業務日誌によりスタッフ全体が情報の共有化を図り、より良い介護の実践や計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスセンターとの連携により、利用者同士が相互訪問し、馴染みの方と談笑するなど、楽しい時間を過ごしてもらうよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行政機関等の協力や学童の訪問を受けるほか、夏祭りやカラオケ大会等の行事に招待を受けるなど、地域の中で暮らしを楽しんでもらうよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医やかかりつけ医と看護職員を中心に気軽に相談でき、往診を含め適切な医療を受けられるよう支援している。また、予防接種、ボランティアの医師による訪問診察や相談の機会もできている。	利用者、家族の希望するかかりつけ医で受診するようにしているが、利用者の約半数は協力医の往診を受けている。定期通院の付き添いは家族対応としているが、家族の都合によっては事業所の看護師が通院を支援している。受診結果は、家族から連絡を受けたり介護記録で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に日々の状態を報告したり、相談しながら日常の健康管理に努めている。また、医療機関と連携するなど、利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、日頃の様子や状態を健康管理表により情報提供している。また、面会等の場面においても、病院関係者と情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化の指針について説明し、同意を得ている。利用者の状況に応じて、主治医や看護師から助言等をもらい、家族と十分に話し合い、その人らしい最期を迎えられることができるよう支援している。	入居時に、重度化や終末期ケアの対応指針を家族等に説明し、同意を得ている。これまで看取り対応の事例があり、支援状況についても記録し、職員間で共有している。今後も、利用者の状況に応じてその都度家族の意向を確認し、医療機関とも連携して支援していく体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを策定するとともに、AEDの取扱訓練や応急手当の初期対応の訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	通報・消火・避難の消防訓練のほか、夜間や地震想定訓練等を地域住民も参加して行っている。また、非常災害時対応マニュアルに自然災害対応についても盛り込み、全職員で勉強会を通して共有している。	消防署の指導や地域住民の協力も得て、併設のデイサービスセンターと合同の防災訓練を実施し、避難経路の確認もしている。事業所単独で夜間想定通報訓練も行っている。災害時の食料等も準備しており、地域も含めて支援できる備蓄量の検討もしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を第一にサービスを提供しており、誇りやプライバシーを損なわない対応について職員間で十分注意し合っている。また、各種記録等についても個人情報に十分配慮した対応をしている。	常に法人理念である、利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーや尊厳を保つ基本に立ち返りながら、日々のケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を表せるよう、日常のコミュニケーションの中で信頼関係を構築し、日頃から何を欲しているか留意するとともに、自己決定できるような場面づくりを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを尊重するように心がけている。特に、入浴、食事は利用者のペースに合わせたサービスの提供に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれは本人の希望に沿って支援している。特に、理美容の希望者は本人の希望する店に行ったり、そうでない方は訪問理美容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞き献立を作っている。土、日はユニットで作り、平日は併設のデイサービスセンターで調理し、ユニットで盛り付けている。利用者は、能力に応じて盛り付けや下膳などできることを職員と一緒にしている。食事は職員も一緒に同じものを食べている。	利用者の嗜好にも考慮しながら献立づくりを行っている。殆どの利用者が全介助であるが、状況に応じて刻み食やミキサー食にしたり、時間をずらして摂取するなど、本人のペースで食事ができるよう柔軟に支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量については、毎日摂取量をチェックしている。食事量については、定期的に専門的立場から栄養士のアドバイスを受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、必要に応じて介助している。また、歯科医の訪問診療時に口腔ケアの指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の声かけや誘導など、利用者の状況に応じて支援している。また、利用者の状態に合わせてリハビリパンツやパッドを使い分けたりして、自立に向けてた支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間や尿意の動作を見ながらトイレで排泄するよう誘導している。個々に応じた排泄用品を選択したり、夜間のみポータブルトイレを準備するなどの配慮をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を確認し、水分、食事、運動を関連づけるなど、日常生活の中で予防に努めている。2～3日排泄が見られない場合は、服薬やマッサージで促すようにしているが、場合によっては医療機関に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	概ね週3回、午後に入浴している。夏場等の時期には、希望に応じてシャワー浴や毎日入浴ができるようにしている。	利用者の体調等に配慮しながら、希望に沿って入浴を支援している。また、ユニット毎に交代で併設のデイサービスセンターの大浴場も利用し、入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠気があっても昼寝を我慢してしまう利用者もいるが、運動を取り入れるなど、一日の生活習慣を基本に支援し、夜間は安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新たに服薬が始まった場合は、その薬の目的、副作用等について職員に周知し、食事毎の服薬準備や服薬の確認を行い、服薬管理を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の能力に応じて、食事の後片付けや、洗濯物の片付け等をしてもらったり、行事等で、踊りや歌を披露できる機会を設けたりしている。外出が好きな利用者にはドライブに出かけるなど、生活に張り合いができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的にホーム周辺を散歩したり、菜園の世話などに出かけている。また、希望に応じてショッピングセンターに買物に行ったり、ドライブに行っている。季節毎の花見や行楽にも出かけるなど、外出の機会をできるだけ多く取るようにしている。	車椅子の利用者が多い中、天候や体調を見計らいながら日常的に事業所周辺を散歩したり、希望に応じて買物やドライブに出かけている。また、季節の花見や行楽などには、デイサービスセンターのバスなどを利用し、全員で出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にホームで預かっているが、買物や外食の際には自分で支払いしてもらうよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には居室に電話を引くことができるようにしている。また、事業所の電話はいつでも利用できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を感じてもらおう、建物内は県産木材を使用し、金属音のしない落ち着いたある暮らしの実現に取り組んでいる。また、採光にも配慮した空間づくりや、季節の花や写真等でも季節が感じられるよう工夫している。	共用スペースの壁面には、絵画や写真を貼ったり、畳の間には時節柄雑壇を飾っている。また、利用者がいつも通る事務室のカウンターには音の出るぬいぐるみを置くなど、居心地よく過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小溜りや休憩所等で、利用者が一人になれたり、お互いが談笑できる空間を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、できるだけ使い慣れたものを持ち込んでもらうようにし、利用者が戸惑うことなく、そして居心地よく暮らすことができるよう工夫している。	各居室の入り口は和風の細工が施され、暖簾をかけ風情を高めている。また、居室内には利用者に馴染みのある家具や身の回り品のほか、家族写真を貼ったり、仏壇やテレビを置くなど、それぞれ個性のある空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ等に手摺りを設置したり、段差の解消、カーペットの滑り止め、扉は引き戸等にするなど、安全対策に配慮している。また、暖簾の花柄で自分の部屋を覚えてもらうなどの工夫をしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名: II ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の尊厳を基本に地域社会の一員として権利が保たれ、日常生活を送ることができるよう、ホームの理念や運営方針で明確にしている。ミーティングや現場で絶えず確認し合い、実践できるよう心がけている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年末のイルミネーション、5月の鯉のぼり、夏のよさこい踊りなどのホームの催しを地域の皆さんと一緒に楽しんでいる。また、一斉清掃、不燃物収集、夏祭り、敬老会、防災訓練などの地域活動に積極的に参加したり、散歩時等の挨拶など、日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣教育施設等による見学や職場体験の場として積極的に協力している。そうした中で、認知症について理解してもらい、事業の大切さをアピールしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、町内会長、家族の代表、市民会館館長、行政担当職員を交え、2カ月に1回運営推進会議を開催し、ホームの取り組み状況等の報告を行い、助言や意見等は運営につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的ではないが、適宜、問い合わせや相談を行い、時には問題提起もしながら連携を保つよう心がけている。また、西部地区のグループホーム連絡会を通して定期的に情報交換を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束対応マニュアルの理解と、個別事例の検討を行っている。また、内部研修、外部研修を通して全職員は身体拘束についての理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを全面的に見直すとともに、内部研修、外部研修を通して全職員に虐待の防止についての理解を徹底し、実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度について、内部研修に関連させて説明し、職員の理解に努めている。現在、活用事例はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前に、ホームの見学や要望等を聞くとともに、重要説明事項等を十分に説明し、理解、納得のうえで利用してもらっている。また、解約についても医療機関や他の福祉施設、介護支援専門員等と協議を行い、介護、医療の継続が図られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理担当職員の設置のほか、意見箱を設置し利用者や家族の希望、意見等が反映できるように心がけている。また、重要事項説明書の中にも行政等の窓口を明記している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で職員の意見、提案、要望を聞く機会を設け、適宜、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員にやる気を起こさせ、ケアの質の向上のため、資格取得を勧めている。資格取得者(介護福祉士等)には手当を支給するなど、配慮してる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り職員の研修会への参加について配慮している。研修参加者による報告を通じて、全職員との共有を図るとともに、年間研修計画を立て内部研修会を行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2カ月毎に西部地区グループホーム連絡会へ参加し、ネットワークを形成している。行政も交えて意見交換を行い、他のホームの活動内容等を参考にしながらサービスの向上につなげている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で、ご本人の成育歴、趣味、病歴等を詳しく収集するとともに、希望や不安なことも受け止めている。そのことが信頼関係を築くうえで重要であることを全職員が認識している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と面談し、要望等を聞き、介護支援専門員との連携して早期にサービス内容を確定するなど、信頼関係を築いている。また、経済面での相談にも応じ、行政への働きかけも行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の状況や意向を踏まえ、ホームでのサービス内容を検討するとともに、医療面や経済面での支援が必要な場合は、関係先につなぐようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が一番輝いていた頃の情報をもとに会話の時間を重視し、特に、本人の昔話を傾聴しながら共に暮らす者同士としての関係を築くようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	いつでも気軽に相談できるようにし、認知症に関する情報提供を行い、家族、職員が共通認識のもと共に利用者を支えていく立場であることを理解し合えるようにしている。		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	事前に把握している友人等に連絡し、面会に来てもらったり、地域の行事への参加やドライブ時に本人の育った家や自宅周辺を意識的に通るなど、これまでの関係が継続できるよう支援している。		
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	利用者の性格や状態などにより、食卓の場所の変更したり、写真撮影、買い物等の外出時もお互いの関わり合いを大切にしながら支援している。		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	退居時には、本人、家族の意向を尊重し、他の施設や医療機関等、利用者の状況に応じたサービスが受けられるよう対応し、その後の様子も家族や施設等から聞くようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	入居時の情報に加え、日々の利用者との会話や動作や家族からの情報等から、その思いを汲み取るようにしている。		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	入居前に、本人、家族から生育歴やこれまでのサービスの利用等について聞いたり、必要に応じて介護支援専門員や医療関係者から情報を取り寄せるなど、幅広く総合的な状況把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアを通じて、一人ひとりの身体状況や、できること、できないことなどの把握に努め、その人らしい支援につなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を踏まえながら、担当者会議において、介護スタッフ全体で計画作成に取り組んでいる。また、定期的にモニタリングを行い、本人の状況に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、業務日誌によりスタッフ全体が情報の共有化を図り、より良い介護の実践や計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスセンターとの連携により、利用者同士が相互訪問し、馴染みの方と談笑するなど、楽しい時間を過ごしてもらうよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行政機関等の協力や学童の訪問を受けるほか、夏祭りやカラオケ大会等の行事に招待を受けるなど、地域の中で暮らしを楽しんでもらうよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医やかかりつけ医と看護職員を中心に気軽に相談でき、往診を含め適切な医療を受けられるよう支援している。また、予防接種やボランティアによる訪問診察や相談の機会もできている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に日々の状態を報告したり、相談しながら日常の健康管に努めている。また、医療機関と連携するなど、利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、日頃の様子や状態を健康管理表により情報提供し、面会等の場面において、病院関係者と情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化の指針について説明し、同意を得ている。利用者の状況に応じて、主治医や看護師から助言等をもらい、家族と十分に話し合い、その人らしい最期を迎えられることができるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを策定するとともに、AEDの取扱訓練や応急手当の初期対応の訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	通報・消火・避難の消防訓練のほか、夜間や地震想定訓練等を地域住民も参加して行っている。また、非常災害時対応マニュアルに自然災害対応マニュアルについても盛り込み、全職員で勉強会を通して共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を第一にサービスを提供しており、誇りやプライバシーを損なわない対応について職員間で十分注意し合っている。また、各種記録等についても個人情報に十分配慮した対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を表せるよう、日常のコミュニケーションの中で信頼関係を構築し、日頃から何を欲しているか留意するとともに、自己決定できるような場面づくりを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを尊重するように心がけている。特に、入浴、食事は利用者のペースに合わせたサービスの提供に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれは本人の希望に沿って支援している。特に、理美容の希望者は本人の希望する店に行ったり、そうでない方は訪問理美容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞き献立を作っている。土、日はユニットで作り、平日は併設のデイサービスセンターで調理し、ユニットで盛り付けている。利用者は、能力に応じて盛り付けや下膳などできることを職員と一緒にしている。食事は職員も一緒に同じものを食べている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量については、毎日摂取量をチェックしている。食事量については、定期的に専門的立場から栄養士のアドバイスを受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、必要に応じて介助している。また、歯科医の訪問診療時に口腔ケアの指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の声かけや誘導など、利用者の状況に応じて支援している。また、利用者の状態に合わせてリハビリパンツやパッドを使い分けたりして、自立に向けてた支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を確認し、水分、食事、運動を関連づけるなど、日常生活の中で予防に努めている。2～3日排泄が見られない場合は、服薬やマッサージで促すようにしているが、場合によっては医療機関に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	概ね週3回、午後に入浴している。夏場等の時季には、希望に応じてシャワー浴や毎日入浴ができるようにしている。	利用者の体調等に配慮しながら、希望に沿って入浴支援をしており、ユニット毎に交代で併設のデイサービスセンターの大浴場を利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠気があっても昼寝を我慢してしまう利用者もいるが、運動を取り入れるなど、一日の生活習慣を基本に支援し、夜間は安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新たに服薬が始まった場合は、その薬の目的、副作用等について職員に周知し、食事毎の服薬準備や服薬の確認を行い、服薬管理を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の能力に応じて、食事の後片付けや、洗濯物の片付け等をしてもらったり、行事等で、踊りや歌を披露できる機会を設けたり、外出が好きな利用者にはドライブに出かけるなど、生活に張り合いができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的にホーム周辺を散歩したり、菜園の世話などに出かけている。また、希望に応じてショッピングセンターに買物に行ったり、ドライブに行っている。また、季節毎の花見や行楽にも出かけるなど、外出の機会をできるだけ多く取るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にホームで預かっているが、買物や外食の際には自分で支払いしてもらうよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には居室に電話を引くことができるようにしている。また、事業所の電話はいつでも利用できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を感じてもらおうよう、県内産の木材を使用し、採光にも配慮した空間づくりや、季節の花、写真等で季節を感じ、金属音のしない落ち着いたある暮らしの実現に取り組んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小溜りや休憩所等で、利用者が一人になれたり、お互いが談笑できる空間を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、できるだけ使い慣れたものを持ち込んでもらうようにし、利用者が戸惑うことなく、そして居心地よく暮らすことができるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ等に手摺りを設置したり、段差の解消、カーペットの滑り止め、扉は引き戸等にするなど、安全対策に配慮している。また、暖簾の花柄で自分の部屋を覚えてもらうなどの工夫をしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)						
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
					1. ほぼ全ての利用者の	
					2. 利用者の2/3くらいの	
					3. 利用者の1/3くらいの	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
					1. 毎日ある	
					2. 数日に1回程度ある	
					3. たまにある	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
					1. ほぼ全ての利用者が	
					2. 利用者の2/3くらいが	
					3. 利用者の1/3くらいが	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
					1. ほぼ全ての利用者が	
					2. 利用者の2/3くらいが	
					3. 利用者の1/3くらいが	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
					1. ほぼ全ての利用者が	
					2. 利用者の2/3くらいが	
					3. 利用者の1/3くらいが	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
					1. ほぼ全ての利用者が	
					2. 利用者の2/3くらいが	
					3. 利用者の1/3くらいが	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○				
			1. ほぼ全ての利用者が			
			2. 利用者の2/3くらいが			
			3. 利用者の1/3くらいが			